

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成24年4月19日 (2012.4.19)

【公開番号】特開2009-79161(P2009-79161A)

【公開日】平成21年4月16日 (2009.4.16)

【年通号数】公開・登録公報2009-015

【出願番号】特願2007-250317(P2007-250317)

【国際特許分類】

C 0 9 K 17/02 (2006.01)

C 0 9 K 17/06 (2006.01)

C 0 9 K 17/10 (2006.01)

C 0 4 B 7/153 (2006.01)

C 0 4 B 28/08 (2006.01)

C 0 4 B 22/14 (2006.01)

C 0 4 B 22/06 (2006.01)

C 0 4 B 22/08 (2006.01)

E 0 2 D 3/12 (2006.01)

C 0 9 K 103/00 (2006.01)

【F I】

C 0 9 K 17/02 P

C 0 9 K 17/06 P

C 0 9 K 17/10 P

C 0 4 B 7/153

C 0 4 B 28/08

C 0 4 B 22/14 B

C 0 4 B 22/06 Z

C 0 4 B 22/08 Z

E 0 2 D 3/12

C 0 9 K 103:00

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月7日 (2012.3.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

高炉スラグ微粉末：50～80mass%、石膏：5～25mass%、ポルトランドセメントまたは／および石灰：10～30mass%を含有し、

下記（a）および／または（b）を満足し、下記（b）の脱硫スラグ量（y）を2倍した値と下記（a）の結晶相量（x）の合計〔（y）×2＋（x）〕が、ポルトランドセメントまたは／および石灰量の15～20mass%であることを特徴とする地盤改良材。

（a）高炉スラグ微粉末の一部が結晶相からなる。

（b）地盤改良材が、さらに脱硫スラグを含有する。

【請求項 2】

高炉スラグ微粉末の結晶相は下記（イ）または／および（ロ）からなることを特徴とする請求項 1 に記載の地盤改良材。

(イ) 高炉水砕スラグの製造時に析出した結晶相

(ロ) 高炉徐冷スラグ

【請求項 3】

高炉スラグ微粉末のガラス化率が 80 mass% 以上であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の地盤改良材。

【請求項 4】

請求項 1 ~ 3 に記載の地盤改良材を、山土または風化花崗岩からなる地盤の改良材として用いることを特徴とする地盤改良方法。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 3 に記載の地盤改良材を、有機物質の比率が 10 mass% 以下、含水比が 50 mass% 以下であって、地盤土質の分類が粘土質シルト～礫質砂である地盤の改良材として用いることを特徴とする地盤改良方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

上記課題を解決するため、本発明は以下を要旨とするものである。

[1] 高炉スラグ微粉末：50～80 mass%、石膏：5～25 mass%、ポルトランドセメントまたは／および石灰：10～30 mass% を含有し、

下記 (a) および／または (b) を満足し、下記 (b) の脱硫スラグ量 (y) を 2 倍した値と下記 (a) の結晶相量 (x) の合計 $[(y) \times 2 + (x)]$ が、ポルトランドセメントまたは／および石灰量の 15～20 mass% であることを特徴とする地盤改良材。

(a) 高炉スラグ微粉末の一部が結晶相からなる。

(b) 地盤改良材が、さらに脱硫スラグを含有する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

[2] 上記 [1] の地盤改良材において、高炉スラグ微粉末の結晶相は下記 (イ) または／および (ロ) からなることを特徴とする地盤改良材。

(イ) 高炉水砕スラグの製造時に析出した結晶相

(ロ) 高炉徐冷スラグ

[3] 上記 [1] または [2] の地盤改良材において、高炉スラグ微粉末のガラス化率が 80 mass% 以上であることを特徴とする地盤改良材。

[4] 上記 [1] ~ [3] のいずれかの地盤改良材を、山土または風化花崗岩からなる地盤の改良材として用いることを特徴とする地盤改良方法。

[5] 上記 [1] ~ [3] のいずれかの地盤改良材を、有機物質の比率が 10 mass% 以下、含水比が 50 mass% 以下であって、地盤土質の分類が粘土質シルト～礫質砂である地盤の改良材として用いることを特徴とする地盤改良方法。